

まちづくり通信

発行日：令和4年10月1日

【ご案内】

令和4年度

『南気仙沼地区まちづくり懇談会』

◆日時：令和4年10月6日（木）午後6時30分から

◆会場：気仙沼市魚市場前庁舎 3階会議室（旧河北ビル）

2017年から毎年行って来た「南気仙沼地区まちづくり説明会」は今年度から「南気仙沼地区まちづくり懇談会」と名称を変更し、引き続き地域の課題や要望を行政に伝え、それに対する回答をしていただきます。地域や自治会から挙がってきた要望・質問事項は5年前の2018年は28件でしたが、区画整理事業が完了し、街の様子がだいたい分かってきた為か今年度は8件でした。数は減ってきたものの地域で安心安全に暮らす為に必要な”信号機設置”や”BRT道路を横切る踏み切りを”など、普段の暮らしに密着した内容ですので、皆様どうぞ、お誘いあわせの上お越しく下さい。

新型コロナ対策として、手指消毒液の設置、マスク着用、座席の間隔等に配慮して開催します

発行：南気仙沼まちづくり振興協議会 〒988-0025 気仙沼市内の脇1-16-6（気仙沼中央公民館内）

電話：070-2016-6014 e-mail:mkmachikyo@gmail.com

南気仙沼まちづくり振興協議会は南気仙沼地区の自治会や地域団体・個人が繋がり地域の皆さまが安心・安全に暮らせる、住みよいまちづくりを目指して活動しています。



南気仙沼地区【生活ガイド作成プロジェクト】

メンバー募集

日時:令和4年10月20日(木)19時から

場所:気仙沼中央公民館 スタジオ2

※お申し込みは事務局まで ☎070-2016-6014(9時~17時)

mail:mkmachikyo@gmail.com

おかげ様で「南気仙沼みらい会議(住民ワークショップ)」で出てきたアイデアを詰め込んだ「南気仙沼まちづくり生き生きプラン」がまとまり、実施して行くタイミングになりました。

ワークショップでは、震災後、新しい街になった南気仙沼地区に住み始めたけれど、地域の事がよく分からないという意見があがり、それだったら暮らしに役立つ情報をまとめた「南気仙沼地区

生活ガイド」があると良いよね、という話になりました。この生活ガイドの作成には、プロジェクトチームを立ち上げて、メンバーの方には、月1回程度集まっていたいただき、内容やデザイン等を話し合いながら進めて行きたいと思います。

- ・南気仙沼地区のまちづくりの為に何かしたい方
- ・プロジェクトのテーマに興味のある方、等々一緒に作ってみませんか?



BRTに乗ってみよう!

令和4年10月9日(日)

南気仙沼地区の事がよく分からないというワークショップでの意見を定例会議で話し合っている時に、BRTや循環バスの時刻表や停留所の事も情報不足という意見がありました。南気仙沼地区はBRTも循環バスも目の前を走っているけれど、普段は車を使っているので、殆どの人がバスに乗った事はありませんでした。今は大丈夫でも、いつか免許返納の日が来るだろうし、乗客が少なければ本数が減るかもしれないし、日を決めてまずはBRTに乗って南気仙沼駅から大谷海岸に行ってみようという事になりました。

バスは約20席、しかも大谷海岸までの乗車時間は19分と短かいので、地区全体でのバスツアーではなく、日にちだけ決め、行きも帰りもそれぞれ好きな時間に、大谷海岸での過ごし方も自由という形で行います。いつか乗ってみたいと思っけていても、実際にとなると腰が重いですよね。なので、これをきっかけにして頂ければと考えました。「そうだね、1回くらい乗ってみっべが・・・」と心が動いたら、身近な旅気分是非トライしましょう!

JR気仙沼線 BRT時刻表(南気仙沼⇄大谷海岸)

大人片道 210円

2022年3月12日改正

南気仙沼駅発	9:34	10:24	10:54	11:39	12:04	12:24	12:54	13:24	13:54	14:24
大谷海岸着	9:53	10:43	11:13	11:58	12:23	12:43	13:31	13:43	14:31	14:43
大谷海岸発	11:03	11:33	12:03	12:33	13:08	13:33	14:03	14:33	15:08	15:33
南気仙沼着	11:22	11:52	12:22	12:52	13:27	13:52	14:40	14:52	15:27	15:52

南気仙沼まちづくり活き活きプラン

スローガン「みんな集まれ南気仙沼」

南気仙沼地区は、震災後、住民がバラバラになり、コミュニティ形成が難しい状況になりました。17あった自治会も活動しているのは6自治会で、現在1自治会が設立準備中ですが、他の自治会はほとんどが解散してしまいました。新たに南気仙沼地区で生活を始めた住民も多く、つながりが十分ではないため、地域住民みんな（住民・商店・事業所）が繋がり、互いに支えられ、子供の声が聞こえる明るいまちを目指します。



合言葉は、COT

地域住民みんなが、ココロをオープンに、とりあえず楽しいことやるしかない！という意思表示です。

Cは地域（CHIKKI）、Oはオープン、Tは楽しいの頭文字で表現しています。



南気仙沼まちづくり振興協議会
会長 吉田久雄

11年前のあの震災で、17あった自治会が今は半数以下の6自治会になり（今後、幸町を中心に新たな自治会が設立予定）それまで地域で積み重ねてきた人と人との結びつきが薄れてしまいました。南気仙沼まちづくり振興協議会では、震災を経ても再び住民同士の繋がりが持てる地域になれるよう活動を行っています。この活き活きプランを策定する為に開催した南気仙沼みらい会議（住民ワークショップ）には私も参加しましたが、若い人が堂々と意見を言っているのが本当に素晴らしく、このような若い世代が活躍するようなまちになって欲しいと心から思いました。また、災害で犠牲者を出さないまちづくりを目標とし、自治会長さんを中心に11月の防災訓練に向け話し合いを続けているところですが、これには、地域皆さまのご協力が必要です。どうぞ宜しくお願いいたします。

～活き活きプラン策定にあたって～

プラン策定にあたり住民アンケート（R3）と南気仙沼みらい会議（R4）を行い、いまの南地区の課題や住民の気持ちを考えながら策定しました。

住民アンケートの回答者の44%が70歳以上の方であり、スーパーなど買い物ができる店が少ないという課題が多くありましたが、南気仙沼地区は、公共交通や公共施設、地元事業所など社会資源も豊富にあり、車で10分程度の移動で用事が済むことも多く、生活する場の環境としては優位点が多いのですが、震災前と比較してしまうと不便さを感じてしまうようです。

今後のまちづくりの視点としては、震災前の状態に戻すのではなく、「今の状況で豊かな暮らしを続けるためには」を重点的に考えることが必要です。

南気仙沼みらい会議で指摘された課題は、人の把握ができていない、子どもなどに声がかけにくい、空き地が多いことやBRTの路線、交流やコミュニケーションに関する事です。住民間のコミュニケーションが図られていないと今後起こり得る有事の際の支え合いができなくなるため、急務で取り組んでいきます。

少子高齢化、人口減少が進む現在、住民みんなで協力し、これからも安心して住み続けられる南気仙沼地区にしていきたいでしょう。

南気仙沼地区のまちづくり基本方針

令和3年7月に実施した住民アンケートを分析し、その後、南気仙沼みらい会議(ワークショップ)で話し合った結果、以下の6項目を基本方針としてまとめました。

この基本方針を実現していくためには、声かけができるなど住民間のコミュニケーションを図ることを重視し、南気仙沼地区一丸で取り組めるように展開していきます。また、少子高齢化、人口減少が進み新たな課題への取り組み事業も発生する可能性もあるため、事業実施には常に円卓会議で議論を重ねながら進めていきます。

① コミュニティ

震災により地区内の住民がバラバラになり、近くに住んでいる人の把握ができず声かけにくい状況が課題となっていることから、コミュニティ分野においては、「挨拶をはじめ声をかけること」を基本方針とします。声をかけられる関係ができれば、地域内の交流やイベントなど自然に住民の和が広がります。また、声かけられる関係ができれば、有事の際の助け合いができます。

② 高齢者

地区内の高齢化率は41%となり、今後、ますます高齢化は進んでいきます。居住人数では二人暮らしが最も多く、次いで一人暮らしが多いことから、老々介護など高齢者への支えは、地区共通の課題として捉え、考え、行動していかなければいけません。体力・気力が低下しないように高齢者分野においては、「気軽にコミュニケーションを創り出すこと」を基本方針とします。サロン活動などありますが、改めて参加してくださいと呼びかけず、自然な流れでコミュニケーションが図れるようにすることで、外出のきっかけになります。

③ 子ども子育て

地区内に保育園、小学校、中学校のほか公園があり、子育てをするには恵まれた環境にあります。しかし、子どもたちが通学や遊びをするには、活かせていない課題もあり、子育て中の親支援や子どもが過ごしやすい環境整備をしていかなければいけません。子ども・子育て分野においては、「地域で子育てや子どもを応援すること」を基本方針とします。子どもが少ないからこそ地区全体で応援することで、子どもの声が聞こえる明るいまちになります。

④ 安心安全

震災に災害への備えを徹底し、地区から今後、犠牲者を出さないためにも有事への備えは重要です。住民同士が連絡し合える体制や避難訓練を実施するなど自主防災の取り組みに力を入れていかなければいけません。また、不審者や通学路の支障木などの危険箇所の点検を行いながら安心安全に努めていかなければいけません。安心安全分野においては、「めげないで声かけをすること」を基本方針とします。避難訓練をするにも、日ごろの安全確認をするにもコミュニケーションがとれる状況を創り出します。

⑤ 景観

地区内に地区の復興工事も進み、公園や道路など完成する度に地区の景観が形成されています。景観と使いやすさが揃っていることが理想ではありますが、公園には駐車場や日陰となる場所が無かったり、ゴミのクラス被害、野良猫など新たな課題もあります。今後、利用しながら景観形成と安全安心に努めていかなければいけません。特に住宅再建予定地の空き地は、草が生い茂り、そこにゴミが捨てられるなど管理の課題は、急務です。環境面を含めた景観分野においては、「南地区への愛着を高めること」を基本方針とします。住民一人ひとりが南地区のお気に入りを持つことで環境美化、景観形成につながります。

⑥ 商業等

スーパーがなく買い物が不便という課題があったが、最近は、ドラッグストアで生鮮食品を扱うようになり、新しいお店が開店するなど利便性は高まっています。南地区にある公共施設をはじめ個店など社会資源は豊富にあるが、知らない住民もいます。地理的に恵まれた南地区なので、今後も新たな出店なども期待できますが、利用が少ないと退去されてしまうことも考えられ、商業分野においては、「南地区にあるサービスを積極的に利用すること」を基本方針とします。地域住民みんな(住民・商店・事業所)が繋がり、互いに支え支えられる姿を創り出します。